

# 私らしくいること

湘南白百合学園中学校 3年 田部 日向子

女子力とはなんだろう。手始めに wikipedia で検索してみたところ、「女性が自分の生き方を向上させたり、自身の存在を世の中に示すために使う力を指す言葉。ただし明確な定義はなく、主に女性らしい態度や容姿、女性ならではの感覚・能力を活かすことなどを指す。」と出てきた。

だが、近年では上記のようなニュアンスというよりかは、「家庭的である」「気配り上手な」人に対する褒め言葉として使われることが多いような気がする。例えば、絆創膏を持ち歩いたりだとか、宴会の場でサラダを取り分けたり、など。また、料理、裁縫を得意とする男性が「女子力高い」と褒められることもある。女性が自分の特性を活かす、という本来の意味から、どれだけ女らしい振る舞いをするか、という意味が変わっているのだ。お菓子づくりが趣味の私は、家族や友達に「女の子らしくていいね」「もうお母さんになれるんじゃない？」という言葉をよくもらう。もちろん、褒めてもらうことは嬉しい。でも、いつも心のどこかで疑問に思うことがある。

「女子力が高いね」と褒めることは、本当にその人を思いやった言葉なのだろうか。ジェンダーについて日本社会がどんどん変容している今の時代に、「女らしさ」「男らしさ」という、性別による違いを強く感じさせる言葉が存在しているのだろうか。

私は世間に「料理や裁縫をするのは女」「おしゃれに気を使うのは女」という考えが根強く残っているからではないだろうかと考える。例えば、メディアでの伝え方だ。メディアで取り上げられる女子力は、「男性受けがいいように、身だしなみに気をつけて家事をこなすこと」というように思われる。そして女子力のない女性を笑いものに行っていることもしばしばだ。この表現に見られるメディア側の固定概念がありありと伝わってくる。情報を伝える側であり、常に時代の先頭を走っているはずのメディアが、いつまでもこのような古い考えではいけないと思う。

さて、このようなことを述べている私だが、いわゆるフェミニストではないと思う。世間で「女らしい」とされている服装も、メイクもしたい。誰かのために料理をすることも大好きだし、将来結婚して子供も産みたい。仕事で成功するためにあえて外見に気を使わなくなったり、家庭を持たずに働きたいとは思わない。女性であることも、一人の人間として働くことも諦めたくない。女らしさを押し付けられないということと、女性としての喜びを捨てることは違うと思うのだ。欲張りだと思うが、それが叶えられる社会になれば、みんながゆとりを持って生きることができる社会になると思う。

女子力、リケジョ、キャリアウーマン、女社長、〇〇女子など、この世の中にはたくさんの女性をカテゴライズする言葉がある。それは、その職業に就く女性が珍しいからこそできた言葉だ。男女に頼った言葉が使われているうちは、本当の意味での男女平等は達成できないのではないだろうか。また、誰かが勝手に決めた女らしさや男らしさに縛られて苦しい思いをするよりも、自分が心地よい自分になれるような、みんなが自分らしさを見つけられる時代にしていきたい。